

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### 《人社系》

#### ●奈良女子大学人間文化研究科国際社会文化学専攻、社会生活環境学専攻 「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

- ・従来の知識習得に比重が置かれた専門科目を専門基礎群と専門応用群とに分けて、大学院生がアカデミックな基盤を培うために体系的に履修し、さらにスキルや専門応用力を高める実践基礎群および実践応用群を履修するという、コースワークを念頭においた体系的カリキュラムを編成した。
- ・高度専門職業人としての意識涵養に資するキャリア形成科目群と、高度専門職業人として必要なスキル（情報処理・分析力、企画・マネジメント力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力など）を身に付けるための実践基礎科目群および実践応用科目群を新設し、人材養成目的に沿った科目を配置した。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・専門科目と新設の実践科目をどのように組み合わせるか、専攻毎に専門性の高まりと望ましいスキル修得のあり方に配慮して履修モデルを作成した。
- ・高度専門職業人の養成という目的の達成に向けて、スキルを身に付ける実践的な科目の開設にあたっては、できるだけ学内の現有スタッフの経験を生かすように努めた。
- ・実践の場で活躍する社会人等を補助的講師やゲストスピーカーとして迎え、大学院生が身近に実践の必要性を理解できるようにした。
- ・できるだけ多くの専門分野の大学院生のニーズにこたえられるよう、インターンシップの実習の場の確保に努めた。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・専門知識の習得に関しては、専門科目を専門基礎群と専門応用群とに分けたことにより学生はより体系的に履修し、理解することができるようになった。
- ・ゲストスピーカーなどの実務経験者の話は、大学における講義内容としては新鮮であったようで、学生の授業への積極的な参加が顕著であり、高度専門職業人としての意識の涵養にも効果があったようである。
- ・授業アンケートの結果に見られるように受講者の授業に対する評価（内容・水準、社会に出て役立つ、修得したスキルの有無、実行力の向上、企画・立案意欲の向

上等) は、「企画・立案意欲が向上した」は4分の3程度であったが、多くが9割前後と肯定的であった。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ②国内外の学会発表、実習等に対する経済的支援の充実

##### 《人社系》

#### ●奈良女子大学人間文化研究科国際社会文化学専攻、社会生活環境学専攻 「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・海外における調査技術の修得および研究発表を実地に体験するための「フィールドサーベイ」を新設し、受講学生に対して費用の一部を助成した。
- ・学会発表等に対して参加登録費等を対象に費用の一部を助成した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・海外での調査技術を身に付けるフィールドサーベイ（実践基礎群）では、事前の準備を周到に行い、調査技術の効果的な修得を図っただけではなく、国際的なキャリア形成の一助とするために、海外の大学で研究結果の発表を行う等現地の大学院生等との研究交流も行うよう工夫した。
- ・学会発表における参加登録費等の助成に際しては、複数の応募者が同一の学会での発表に対して参加登録費等の助成申請があった場合には公平性に配慮し、応募者に共通すると考えられる費用を勘案した上で採択額を決定した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・大学院生の学会発表は、博士前期課程、後期課程ともに大幅に増加し、大学院生の学会発表への意欲の向上がみられた。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ⑤その他

##### 《人社系》

#### ●奈良女子大学人間文化研究科国際社会文化学専攻、社会生活環境学専攻 「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・大学院生のキャリア形成のために、自主的研究活動を促し支援すべく「キャリア形成のための院生自主企画」に対して経費の一部（講師旅費、謝金等）を助成した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・通常の講義等の中で取り組むことが難しい企画・マネジメント力を発揮する実践の場を提供して大学院生の専門職キャリア形成の一助とするために、博士前期課程及び後期課程の大学院生を対象に、「キャリア形成のための院生自主企画」に対して経済的支援を行い、研究会やセミナー、ワークショップ等の自主的、積極的な開催を促し、大学院生が企画・マネジメント力やコミュニケーション力を発揮する場を容易に設定できるように工夫した。また、その際に院生から相談があれば必要に応じて教員がアドバイスをを行うようにした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・大学院生の学会発表及び論文発表が、博士前期課程、後期課程ともに大幅に増加し、大学院生の研究や発表に対する積極性、自主性や意欲が大きく向上した。